2012 年 7 月 4 日

総務省統計研修所　西　文彦

シングル・マザーの最近の状況（2010 年）

Ⅰ　はじめに

本稿は、総務省統計研修所の調査研究の一環としてのものであり、「シングル・マザー」について、世帯の区分、配偶関係、年齢別等の統計を用いて、最近の状況を明らかにすることを目的としている。

なお、本稿中の記述は、筆者の個人的な見解に基づいたものである。

Ⅱ　使用したデータと用語の定義

本稿で紹介する統計は、基本的には、総務省統計局が５年毎に実施している『国勢調査』の結果のうち、2000 年、2005 年及び 2010 年の全数結果から抜粋したものであるが、一部、抽出速報集計データ[1)]を特別に集計した結果を含んでいる。

ここでいう「シングル・マザー」[2),3)]とは、以下の２種類のいずれかに該当する世帯の母である。

①「母子世帯」の母

「母子世帯」とは、未婚，死別又は離別の母と，その未婚の 20 歳未満の子のみから成る一般世帯をいう。

②「上記①の母子と他の世帯員からなる一般世帯」の母

「上記①の母子と他の世帯員からなる一般世帯」(以下、単に「他の世帯員がいる世帯」という。）とは、例えば、上記①の母子とその祖父母が同居している一般世帯などが該当する。

なお、この「他の世帯員」には、母の 20 歳以上の子及び未婚でない子は含まれないので、これらの子がいる世帯は除いてある。

【先行論文との「シングル･マザー」の定義の比較】

2005 年版では、「子と同居で配偶者のいない女性 (15～49 歳)」をシングル･マザーとし、母の年齢を条件とする一方で、子の年齢や配偶関係による分析はしていないので、条件としていない。

http://www.stat.go.jp/training/2kenkyu/pdf/zuhyou/single3.pdf

1)　2000 年、2005 年及び 2010 年の国勢調査抽出速報集計用データは、全数から約１％を抽出したデータであるため、集計結果は、標本誤差を含んでおり、全数結果とは必ずしも一致しない。

2)　英語で Single Mother というと、未婚の母という響きがあり、ここでいうシングル・マザーよりも意味が狭い。

3)　子と同居か否かは、世帯ごとに各人の「続き柄」によって判定されている。したがって、例えば、実際には子と同居であっても、「続き柄」への回答状況によっては、子と同居と判定できない人がおり、その場合には、ここでは対象に含まれていない。また、一般的にいわれる「シングル・マザー」には、子と同居していない場合も含まれるが、ここでは含まれていない。

Ⅲ　結果の概要

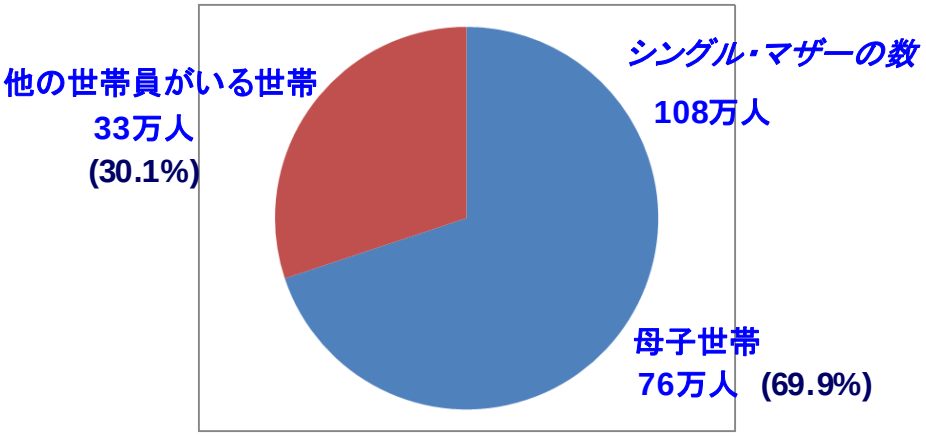
１.「シングル・マザー」は 108 万人

我が国の 2010 年における「シングル・マザー」の総数は、108 万 2 千人となっており、100 万人を大きく超えている。これを世帯の区分別にみると、「母子世帯」の母が 75 万 6 千人（率にして 69.9%）及び「他の世帯員がいる世帯」の母が 32 万 6 千人（同 30.1%）となっており、３割が「他の世帯員がいる世帯」の母、すなわち「母子世帯」以外の世帯で暮らしている。

なお、「他の世帯員がいる世帯」の９割強は３世代世帯で、「母子世帯」とその祖父母の両方またはいずれかが同居している世帯である。

「シングル・マザー」の場合には、生活に困窮することも少なくないと考えられるので、100 万人の大台を超えた現在、児童虐待などの社会問題につながらないように、より一層の支援策や社会的な動き（例えば、Ⅳ.「おわりに」で後述するような動き）が期待されるところである。（図１、表１参照）

図1　世帯の区分（2区分）別 シングル･マザー数 及び割合　ー　全国（2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表1　世帯の区分（2区分）別 シングル･マザー数ー　全国（2010年）

世帯の区分（2区分）	実数　（人）	割合　（%）
総　数	1,081,699	100.0
母子世帯	755,972	69.9
他の世帯員がいる世帯	325,727	30.1

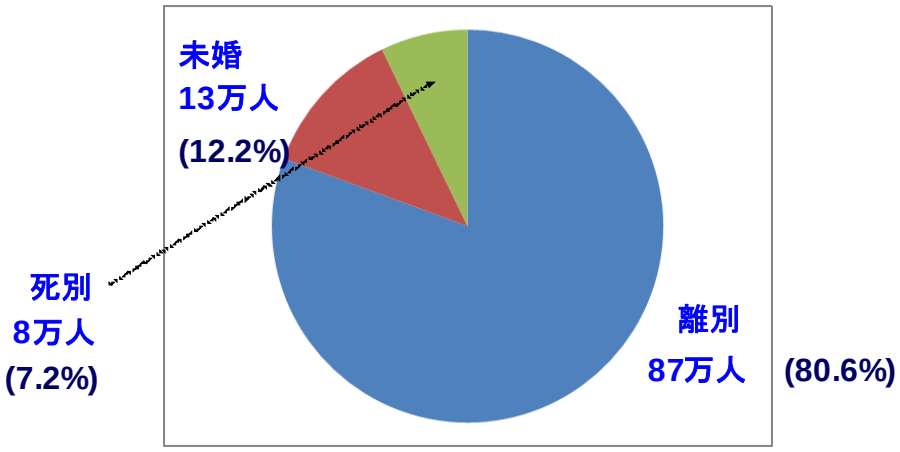
資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

２.「シングル・マザー」は離別が８割と大半を占めている

「シングル・マザー」を配偶関係別にみると、離別が 87 万 2 千人（率にして 80.6%）となっており、８割が離婚により「シングル・マザー」になっていることがわかる。次いで、未婚が 13 万 2 千人（同 12.2%）と未婚が１割を超えており、死別が 7 万 8 千人（同 7.2%）となっている。（図２、表２参照）

なお、女性の生涯未婚率が、2005 年の 7.25%から 2010 年には 10.61%に上昇している背景もあり [4]、後出 10 で述べるとおり、「シングル・マザー」数が微増に留まっている一方で、そのうちの未婚の「シングル・マザー」は急増しており、その割合は高くなりつつある。

図2　配偶関係（3区分）別 シングル･マザー数 及び割合　－　全国（2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表2　配偶関係（3区分）別 シングル･マザー数　―　全国（2010年）

配偶関係（3区分）	実数　（人）	割合　（%）
総　数	1,081,699	100.0
未婚	132,052	12.2
死別	77,912	7.2
離別	871,735	80.6

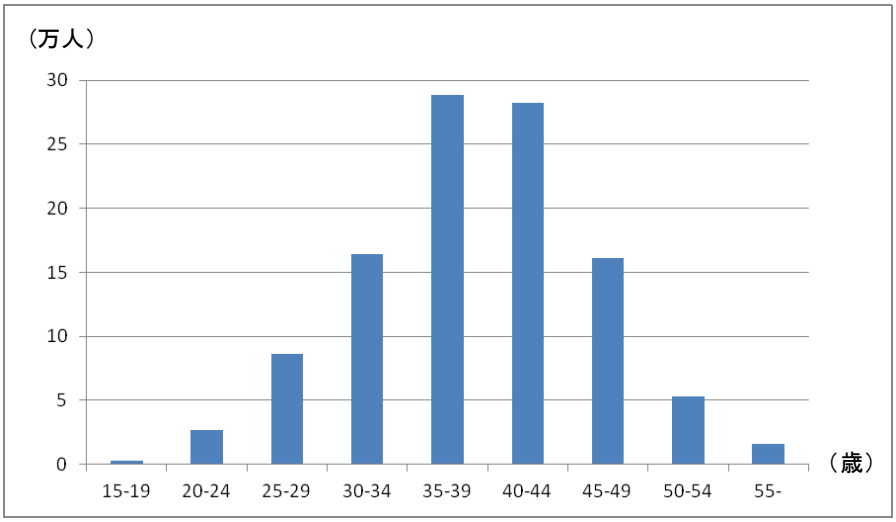
資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

4)　国立社会保障･人口問題研究所　人口統計資料集 2012 年　表 6-23 参照

３．「シングル・マザー」は 35～39 歳が最も多い

「シングル・マザー」を年齢階級別にみると、2000 年及び 2005 年と同様に、35～39 歳が 29 万人（率にして 26.7%）と最も多くなっている。このことは、大きな特徴といえる。なぜなら、2000 年から 2010 年にかけて、いわゆる団塊ジュニア（1971 年～1974 年生まれの世代）、すなわち、大きな人口の塊が、25～29 歳から 35～39 歳に移行したにもかかわらず、常に 35～39 歳が最も多い年齢層であったからである。次いで、40～44 歳が 28 万人（同 26.1%）、30～34 歳が 16 万 5 千人（同 15.2%）、45～49 歳が 16 万 2 千人（同 14.9%）などとなっている。（図３、表３、表 11-1 参照）

図3　年齢5歳階級（9区分）別 シングル･マザー数
ー　全国（2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表3　年齢5歳階級（9区分）別 シングル･マザー数　―　全国（2010年）

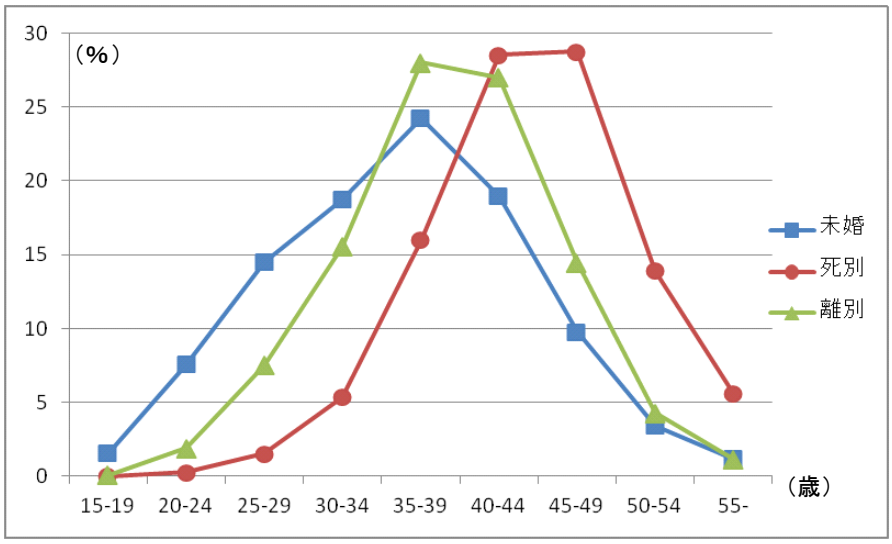
年齢5歳階級（9区分）	実数　（人）	割合　（%）
総　数	1,081,699	100.0
15-19歳	2,752	0.3
20-24	26,807	2.5
25-29	86,005	8.0
30-34	164,598	15.2
35-39	288,530	26.7
40-44	282,637	26.1
45-49	161,560	14.9
50-54	52,731	4.9
55歳以上	16,079	1.5

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

４．未婚の「シングル・マザー」の年齢は相対的に低い

「シングル・マザー」を配偶関係及び年齢階級別にみると、図４のとおり、未婚のグラフが比較的左側に位置しており、年齢が相対的に低いことがわかる。ピークの年齢層をみると、未婚が 35～39 歳で最も若く、次いで、離別が 35～44 歳、死別が 40～49 歳となっており、未婚、離別、死別の順に年齢層が高くなっていることがわかる。（図４、表４－１、表４－２参照）

図４　配偶関係（３区分）、年齢５歳階級別
シングル･マザーの構成比　－　全国（2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表４－１　配偶関係（３区分）、年齢５歳階級（９区分）別 シングル･マザー数　―　全国（2010年）

（人）

年齢5歳階級（9区分）	総数	未婚	死別	離別
総　数	1,081,699	132,052	77,912	871,735
15-19歳	2,752	2,058	10	684
20-24	26,807	10,050	195	16,562
25-29	86,005	19,130	1,187	65,688
30-34	164,598	24,731	4,180	135,687
35-39	288,530	32,024	12,468	244,038
40-44	282,637	25,051	22,235	235,351
45-49	161,560	12,914	22,409	126,237
50-54	52,731	4,534	10,845	37,352
55歳以上	16,079	1,560	4,383	10,136

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表４－２　配偶関係（３区分）別 シングル･マザーの年齢構成比 ― 全国（2010年）

（%）

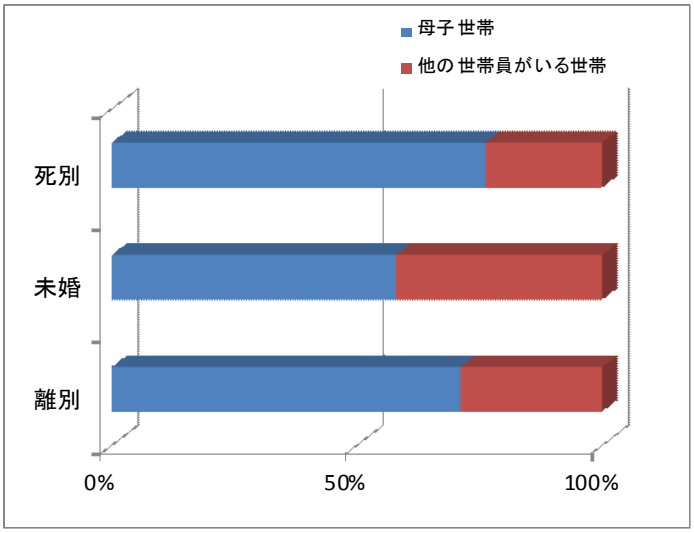
年齢5歳階級（9区分）	総数	未婚	死別	離別
総　数	100.0	100.0	100.0	100.0
15-19歳	0.3	1.6	0.0	0.1
20-24	2.5	7.6	0.3	1.9
25-29	8.0	14.5	1.5	7.5
30-34	15.2	18.7	5.4	15.6
35-39	26.7	24.3	16.0	28.0
40-44	26.1	19.0	28.5	27.0
45-49	14.9	9.8	28.8	14.5
50-54	4.9	3.4	13.9	4.3
55歳以上	1.5	1.2	5.6	1.2

資料出所:　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

５．未婚の「シングル・マザー」は「他の世帯員がいる世帯」で暮らしている割合が高い

「シングル・マザー」の世帯の区分を配偶関係別にみると、未婚は、年齢層が相対的に低いこともあり、「他の世帯員がいる世帯」で暮らしている割合が 42.0%と最も高いことがわかる。次いで、離別が 28.9%、死別が 23.8%となっている。（図５、表５－１、表５－２参照）

図5　世帯の区分（2区分）、配偶関係（3区分）別
シングル･マザーの構成比　－　全国（2010年）



資料出所:総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表５－１　世帯の区分（２区分）、配偶関係（３区分）別 シングル･マザー数
— 全国（2010年）

（人）

配偶関係（3区分）	総　数	母子世帯	他の世帯員がいる世帯
総　数	1,081,699	755,972	325,727
未婚	132,052	76,594	55,458
死別	77,912	59,364	18,548
離別	871,735	620,014	251,721

資料出所:　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表５－２　世帯の区分（２区分）、配偶関係（３区分）別
シングル･マザーの構成比 — 全国（2010年）

（%）

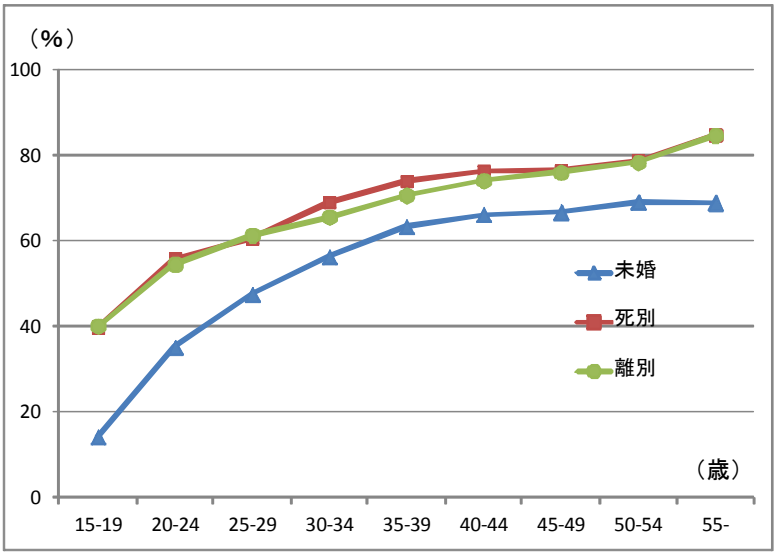
配偶関係（3区分）	総　数	母子世帯	他の世帯員がいる世帯
総　数	100.0	69.9	30.1
未婚	100.0	58.0	42.0
死別	100.0	76.2	23.8
離別	100.0	71.1	28.9

資料出所:　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

６．若年の「シングル・マザー」は「他の世帯員がいる世帯」で暮らしている割合が高い

「シングル・マザー」が「母子世帯」で暮らしている割合を配偶関係及び年齢階級別にみると、未婚、死別及び離別のいずれも、若年になるほど「母子世帯」で暮らしている割合が低くなっている。換言すれば、「他の世帯員がいる世帯」で暮らしている割合が高くなっている。ちなみに、未婚の 15～19 歳は 85.8%が、20～24 歳も 64.8%が「他の世帯員がいる世帯」で暮らしている。（図６、表６－１、表６－２参照）

図6　配偶関係（3区分）、年齢5歳階級（9区分）別
母子世帯の割合 － 全国（2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表6－1　配偶関係（3区分）、年齢5歳階級（9区分）別 母子世帯数 ― 全国（2010年）

（人）

年齢5歳階級（9区分）	総数	未婚	死別	離別
総　数	755,972	76,594	59,364	620,014
15-19歳	571	292	4	275
20-24	12,685	3,541	109	9,035
25-29	50,147	9,097	720	40,330
30-34	105,964	13,926	2,889	89,149
35-39	202,210	20,304	9,234	172,672
40-44	208,191	16,594	16,971	174,626
45-49	121,814	8,629	17,150	96,035
50-54	41,005	3,135	8,570	29,300
55歳以上	13,385	1,076	3,717	8,592

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

表6－2　配偶関係（3区分）、年齢5歳階級（9区分）別
シングル･マザー数に対する母子世帯の割合　―　全国（2010年）

（%）

年齢5歳階級（9区分）	総数	未婚	死別	離別
総　数	69.9	58.0	76.2	71.1
15-19歳	20.7	14.2	40.0	40.2
20-24	47.3	35.2	55.9	54.6
25-29	58.3	47.6	60.7	61.4
30-34	64.4	56.3	69.1	65.7
35-39	70.1	63.4	74.1	70.8
40-44	73.7	66.2	76.3	74.2
45-49	75.4	66.8	76.5	76.1
50-54	77.8	69.1	79.0	78.4
55歳以上	83.2	69.0	84.8	84.8

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表

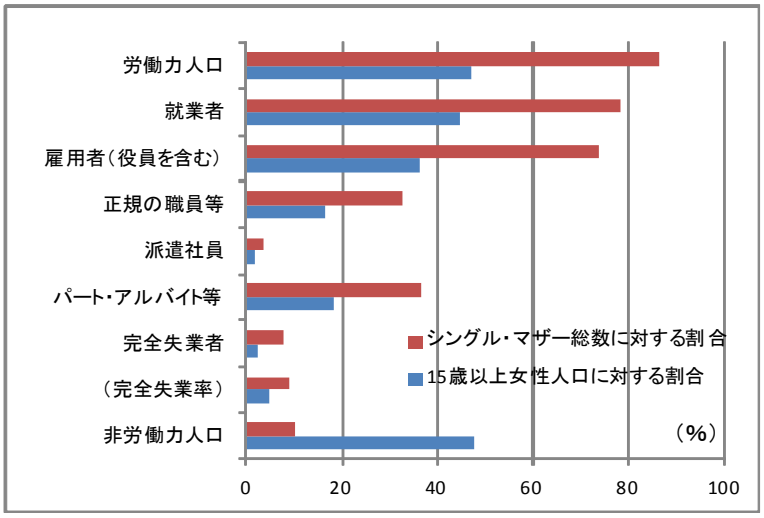
注）　上表は、表4－1を分母、表6－1を分子として算出したものである。

７．「シングル・マザー」は労働力率や完全失業率が高い

「シングル・マザー」の労働力状態をみると、労働力率は 86.1%となっており、15 歳以上女性人口の 47.0%と比較すると、かなり高くなっており、「シングル・マザー」が働かざるを得ない経済状況に置かれている場合が多いのではないかと推測できる。また、完全失業率も 9.0%と、同 5.0%よりも著しく高くなっており、失業面では、かなり深刻であることがわかる。

また、この従業上の地位をみると、正規の職員・従業員の割合は 32.7%と、15 歳以上女性人口の 16.5%よりも、かなり高くなっており、必ずしも非正規雇用の割合のみが高いわけではないことがわかる。（図７、表７－１、表７－２参照）

図7　労働力状態･従業上の地位（6区分）別
シングル･マザー総数に対する割合　－　全国（2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第32-2表

表7－1　労働力状態･従業上の地位（6区分）別
15歳以上女性人口及び割合　－　全国（2010年）

労働力状態･従業上の地位（6区分）	実数　（人）	割合　（%）
総数	57,122,871	100.0
労働力人口	26,874,210	47.0
就業者 1）	25,521,682	44.7
雇用者（役員を含む）	20,761,317	36.3
正規の職員･従業員	9,433,752	16.5
労働者派遣事業所の派遣社員	891,120	1.6
パート･アルバイト･その他	10,436,445	18.3
完全失業者	1,352,528	2.4
（完全失業率）	-	5.0
非労働力人口	27,286,707	47.8

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第1-2表及び第3表

表7－2　労働力状態･従業上の地位（6区分）別
シングル･マザー数及び割合　－　全国（2010年）

労働力状態･従業上の地位（6区分）	実数　（人）	割合　（%）
総数	1,081,699	100.0
労働力人口	931,838	86.1
就業者 1）	847,843	78.4
雇用者（役員を含む）	800,293	74.0
正規の職員･従業員	354,157	32.7
労働者派遣事業所の派遣社員	39,369	3.6
パート･アルバイト･その他	395,975	36.6
完全失業者	83,995	7.8
（完全失業率）	-	9.0
非労働力人口	109,419	10.1

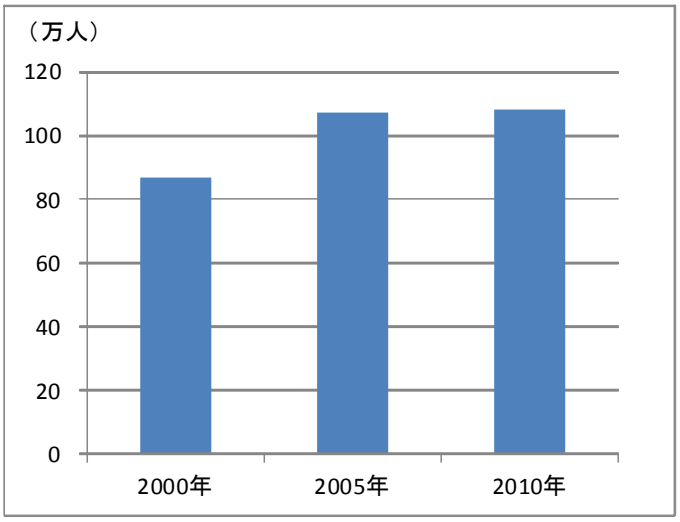
資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第32-2表

８.「シングル・マザー」の数は、この５年間で微増

「シングル・マザー」数は 108 万 2 千人で、2005 年の 107 万 2 千人と比較すると、僅か１万人の増加となっており、この５年間では 0.9%の微増にとどまっている。

その背景として、2005 年から 2010 年にかけて離婚件数が減少傾向にあること、特に、子供のいる夫婦の離婚が減少傾向にあることなどが挙げられる。[5)]（図８、表８参照）

図8 シングル･マザー数の推移
ー 全国（2000年、2005年、2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

表8 シングル･マザー数の推移ー 全国（2000年、2005年、2010年）

シングル･マザー	2000年	2005年	2010年
総　数　（万人）	86.8	107.2	108.2

シングル･マザー		2000年～2005年	2005年～2010年
増加数　（万人）	-	20.3	1.0
増加率　（%）	-	23.4	0.9

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

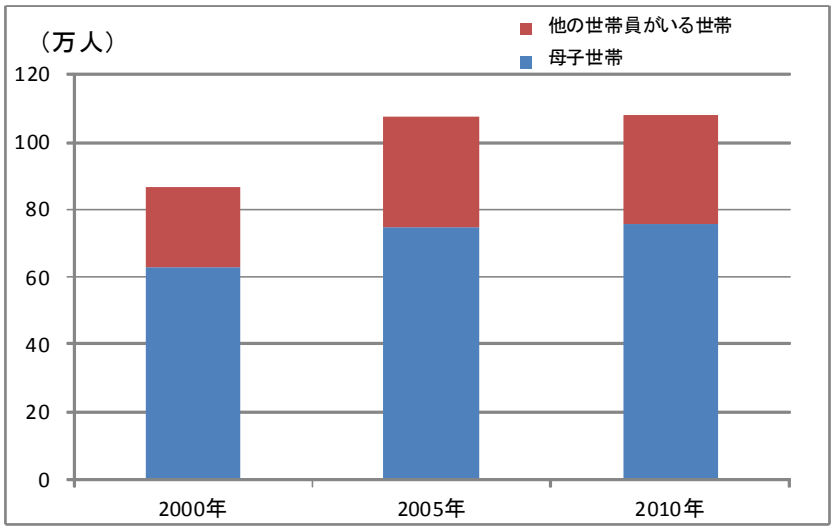
5)　厚生労働省　人口動態統計 2010 年　10-1 表、10-10 表参照

９．「母子世帯」で暮らす「シングル・マザー」の数は、この５年間で微増

「母子世帯」で暮らす「シングル・マザー」の数は 75 万 6 千人で、2005 年の 74 万 9 千人と比較すると、僅か 7 千人の増加となっており、この５年間では 0.9%の微増にとどまっている。

また、「他の世帯員がいる世帯」（ほとんどが３世代世帯）で暮らす「シングル・マザー」も、この５年間に 3 千人増と僅かながら増加している。このことは、「他の世帯員がいる世帯」で暮らす「シングル・マザー」が、近年減少を続けている３世代世帯の中にあって、逆に増加している部分であることを示している。また、３世代世帯の動向を分析する指標の１つでもある。（図９、表９参照）

図９　世帯の区分（2区分）別シングル･マザー数の推移－　全国（2000年、2005年、2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

表９　世帯の区分（2区分）別シングル･マザー数の推移
―　全国（2000年、2005年、2010年）

（万人）

世帯の区分（2区分）	2000年	2005年	2010年
総　数	86.8	107.2	108.2
母子世帯	62.6	74.9	75.6
他の世帯員がいる世帯	24.3	32.3	32.6

（万人）

世帯の区分（2区分）		2000年～2005年	2005年～2010年
増加数	-	20.3	1.0
母子世帯	-	12.3	0.7
他の世帯員がいる世帯	-	8.0	0.3

（%）

世帯の区分（2区分）		2000年～2005年	2005年～2010年
増加率	-	23.4	0.9
母子世帯	-	19.7	0.9
他の世帯員がいる世帯	-	33.0	1.0

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
　　総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

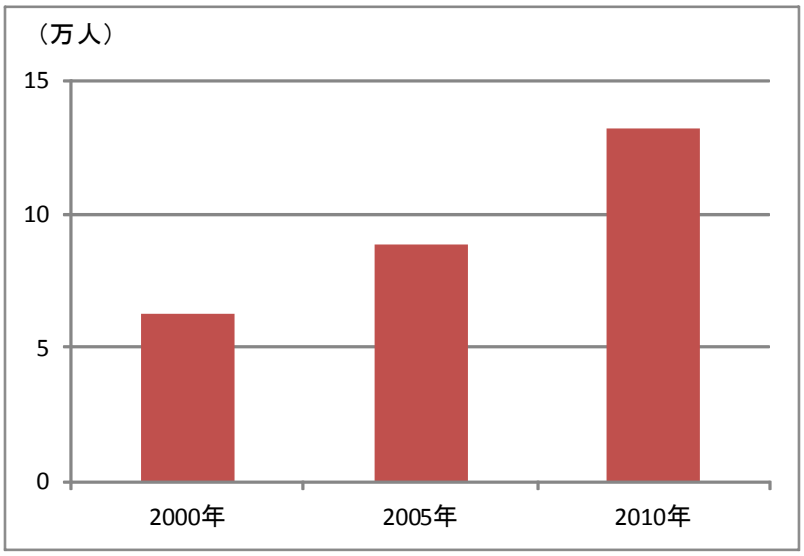
10.　未婚の「シングル・マザー」の数は、この５年間で急増

未婚の「シングル・マザー」数は 13 万 2 千人となっており、2005 年と比較すると、「シングル・マザー」数が微増に留まっている一方で、そのうちの未婚は、4 万 3 千人増、率にして 48.2%増と、急増していることがわかる。（図 10、表 10 参照）

その背景として、2005 年から 2010 年にかけて嫡出でない子の出生数が増加傾向にあることなどが挙げられる。[6)]

また、1947 年以降、基本的には低下傾向にあった合計特殊出生率が、2005 年の 1.26 を底に、徐々に回復傾向にあり、2010 年には 1.39 となっており、少子化の進行が徐々に緩やかになっている。上述の未婚の「シングル・マザー」の急増が、合計特殊出生率の回復に寄与していることは、間違いのないところである。[7)]

図10　未婚のシングル･マザー数の推移
－　全国（2000年、2005年、2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
　　総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

表10　未婚のシングル･マザー数の推移－　全国（2000年、2005年、2010年）

未婚のシングル･マザー	2000年	2005年	2010年
総　数　（万人）	6.3	8.9	13.2

未婚のシングル･マザー		2000年～2005年	2005年～2010年
増加数　（万人）	-	2.6	4.3
増加率　（%）	-	42.0	48.2

資料出所：　総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

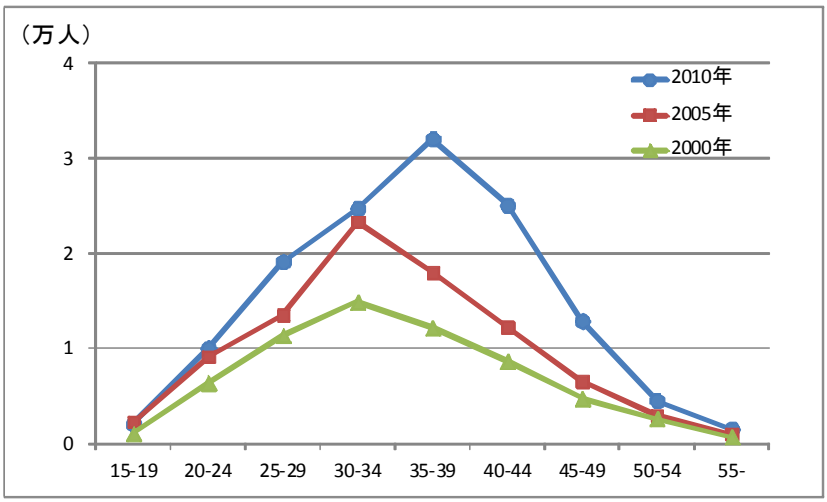
6)　厚生労働省　人口動態統計 2010 年　4-29 表参照

7)　厚生労働省　人口動態統計 2010 年　4-1 表参照

11. 未婚の「シングル・マザー」の年齢構成は「山型」

未婚の「シングル・マザー」の年齢構成をみると、図 11 のとおり、35～39 歳をピークとした山型となっている。2000 年及び 2005 年と比較すると、段々と山が高くなっており、未婚の「シングル・マザー」が、老若を問わず増加傾向にあることがわかる。また、2000 年及び 2005 年には、山のピークは 30～34 歳であったが、2010 年には 35～39 歳に移行している。これは、2010 年には、いわゆる団塊ジュニア（1971 年～1974 年生まれ）がこの年齢層に含まれており、この年齢層の人口そのものが多いことが主な要因と考えられる。（図 11、表 11-1、表 11-2 参照）

図11　未婚のシングル･マザーの年齢構成の推移
－　全国（2000年、2005年、2010年）



資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

表11－1　シングル･マザーの年齢構成の推移　－　全国（2000年、2005年、2010年）

（万人）

年　次	15-19歳	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳以上
2010年	0.3	2.7	8.6	16.5	28.9	28.3	16.2	5.3	1.6
2005年	0.3	3.4	10.2	22.0	27.0	24.8	13.1	4.8	1.6
2000年	0.2	2.7	10.3	16.1	20.2	19.2	12.0	4.9	1.2

資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

表11－2　未婚のシングル･マザーの年齢構成の推移　－　全国（2000年、2005年、2010年）

（万人）

年　次	15-19歳	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳以上
2010年	0.2	1.0	1.9	2.5	3.2	2.5	1.3	0.5	0.2
2005年	0.2	0.9	1.4	2.3	1.8	1.2	0.7	0.3	0.1
2000年	0.1	0.6	1.1	1.5	1.2	0.9	0.5	0.3	0.1

資料出所：総務省統計局　2010年国勢調査産業等基本集計第29表
総務省統計研修所　2000年、2005年国勢調査特別に集計した結果

Ⅳ．おわりに

先日、あるテレビ番組を見ていたところ、最近は、「シングル・マザー」専用のアパートがあり、お互いに子供のお世話をし合うなど、助け合いながら暮らしている様子を紹介していた。また、地方の老舗旅館の中には、「シングル・マザー」のみを仲居さんとして雇うところがあり、その様子を紹介していた。「シングル・マザー」のみを雇う理由は、旅館全体で子育てを支援すれば、「シングル・マザー」の方が長く働いてもらえる、すなわち、定着率がよいから、とのことであった。

本稿を通じて、「シングル・マザー」の現状を周知することにより、上述のような動きが拡大し、日本という国が「シングル・マザー」の方々や子どもたちにとって、暮らしやすく、働きやすい社会になって行くことを切に願っている。

また、本稿は、国勢調査結果をいろいろな視点から分析すると、現代社会に内在する新たな動きが見えてくるという一例である。今後も、このような研究分析を継続するためにも、国勢調査自体が円滑に実施されることが大変重要である。国勢調査は、福祉政策を始めとした各種行政政策の立案等に不可欠な基礎資料を提供しており、引き続き、国勢調査にご協力いただければ、誠に幸いである。